

No.	タイトル	評価項目	自己評価		記述	運営推進会議への評価報告	
Ⅰ. 理念・安心と安全に基づく運営							
1	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	10% 65% 25% 0%	○地域という言葉を広く見た時に、大学や研修機関からの実習生を受け入れたりと貢献はできた。 ○理念の唱和、カンファレンスを行い、馥郁としての認知症への理解や支援の共有はできていた。 ○日常の中で、散歩の際に地域の方々との挨拶や交流を心がけた。 ○地域と利用者との交流はできなかったが、地域貢献という形で、物販の協力をしたりしていた。 ○認知症の理解を深めるための研修への参加することでの研鑽の機会を増やすことができた。 ○地域交流はまだまだ感染対策上難しい現状にあった。	認知症への理解や支援の方法については、研修会への積極的な参加や伝達研修を行うことで、資質の向上に努めることができた。一方で、外出の機会や面会制限の緩和などで他者との交流が少しずつ出来るようになったものの、日常的な地域との交流の機会を作ることまでは、今年度も至らなかった。入所者が地域中の一員として、生きがいをもって生活できるように、地域に役立つ事業所、認知症の相談役として、引き続き、職員一人ひとりの自己研鑽を進めていきます。	
2	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	100% 0% 0% 0%	○対面開催が出来るようになって、取組みの状況等についての報告はできている。 ○運営推進会議の目的や意義は浸透しており、率直な意見を頂き、参考にしてミーティング等で検討している。 ○前年度の反省から、運営推進会議へ職員の参加が始まったことで、会議の内容の共有やサービス向上につなげることができる。	運営推進会議に、現場スタッフも参加することで会議での貴重な意見をサービスに役立てること、会議の内容を共有することができています。今後も運営推進会議を活かした取り組みを続けていきます。	
3	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	10% 90% 0% 0%	○市町村担当者との連絡を直接受けている訳ではないが、回覧で情報は共有する機会ができています。 ○運営推進会議録を市町村へ提出することでの報告はできている。 ○直接的な連絡をとっている訳ではないが、馥郁 HP を活用して、馥郁の実情やケアサービスへの取組みを伝えることができています。	ホームページの活用は影響が大きく、市町村からも「認知症伴走型支援事業」の事業計画について意見を求められたことがありました。自事業所の取組みをしっかりと公表、実践していくことで協力関係をこれからも築いていきます。	
4	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	95% 5% 0% 0%	○限られた面会時間を通して、その関係の継続。途切れることがないように家族への声かけを実施できている。 ○外出による馴染み関係の交流はできないが、来所による交流は継続できている。 ○家族がいつでも気軽に面会できるように心がけた。 ○入所前のことや利用者が好きな事、大切にしていた事を知る取組みを継続している。日常の場面でも利用者らしさを大切に取組みが行えた。	認知症ケアは、その人を知ることから始まることを大切にしながら、環境の変化、喪失感など利用者が安心して生活できる場所づくりに取り組むことができています。今後も馴染みの人や場所、利用者が大切にしてきたものをいつまでも持ち続けられるように努めていきます。	

Ⅱ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
5	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	85% 15% 0% 0%	○月１回のユニット毎のカンファレンスを通して、利用者の課題の解決、発見について共有をおこなっている。 ○家族の面会時には、現在の様子だけでなく、家族の要望や意見も聞き取るように心がけた。 ○カンファレンスが開催され、意見交換が出来る。 ○情報共有ノートを活用しながら、常に同じレベルでのケアが計画のもと実践できるように取り組んでいる。	常に現在の取組みについて、関係者で意見交換を行いながら、変化があった場合は、すぐに変更点を話し合い、実践できていると思います。そして、常に家族への報告を怠らないことで、良好な関係性の構築にも繋がっているので、話し合いを積極的に実践していきます。	
6	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	90% 10% 0% 0%	○気づきがあれば、皆で共有し、サービスを具体化するようにしてきている。 ○できるだけ、すぐに家族へ報告するように心がけている。 ○面会の機会を家族とのコミュニケーションの機会として活用することができた。	家族と対話をする事情報収集やニーズの発見に繋がっていると思います。家族との対話に際には、サービスの評価や振り返りを行いながら、柔軟な支援に取り組んでいきます。	
7	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	10% 45% 45% 0%	○地域にどんな社会資源があるのか、広報紙やインターネットを活用しながら情報収集を行うことができた。 ○外出活動や季節行事など、地域に存在するものの情報を集めながら、豊かな暮らしを目指すため取り組むことができている。 ○本人の心身の力の活用という面での課題が残っている。	運営推進会議の場も社会資源を共有する場でもあります。地域の現状と事業所のニーズを照らし合わせながら、少しずつ地域参加につなげられるように取り組んでいきます。	
8	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	98% 2% 0% 0%	○火災、水害等の訓練を通して、常に命を守る責任を感じる機会となっている。 ○防災マニュアルの確認や訓練が定期的に行われている。 ○当日の訓練に参加できなかった職員にも、別日に訓練を実施する機会を計画したことで、職員全員が避難に対する技術を身に付ける機会となった。	前年度の反省から、避難訓練に当日参加できなかった職員へも伝達研修を行うことで、避難に関する知識や技術の平準化を目指すことができました。今後も職員全員が避難方法を身に付けるための研鑽の場をしっかりと提供していきます。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
9	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	92% 8% 0% 0%	○一人一人の役割を分担し、残存機能を活かした支援を心がけた。 ○年行事や祝事等、散歩などの当たり前の日常に心がけた。 ○掃除・洗濯・料理など、家にいたら当たり前のようにすることを積極的に声かけを行なった。 ○楽しみのもてる余暇活動を計画。共同作品製作への参加や運動機会の提供などを行った。 ○レクリエーションは一人一人の個性に趣をおきながら取り組んだ。	集団レクリエーションだけでなく、一人ひとりの特技等を活かした取り組みの実践を計画してきました。役割をもてる活支援を行っていきます。	

10	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	10% 85% 5% 0%	○外を歩きたいという要望があれば、皆で協力して対応することができた。 ○外出の機会は、今年度は増やすことができたが、希望という点では、目的地は職員が決めていることもあり、個別性という点では不十分な点もあった。 ○家族とも行ったことがない場所へも外出できたとの声を聞くこともあった。 ○地域協力はこれからの課題だと感じている。	家族の来所や地域の方々との出入り等はまだまだ制限がかっていますが、家族との時間を大切にする取り組みは、今年度は増やすことができました。しかしながら、自分の意向という面や家族の協力という面は、まだまだ課題は残ります。次年度は、そういった課題に目を向けて取り組んでいきます。	
43	生活の継続性	本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	10% 75% 15% 0%	○自分の意向を代弁できない方は家族と話し合いながら、戸外へ出かける機会を作れている。 ○時間をみて散歩への声かけを実施できている。 ○自分の意向という面では十分ではない。 ○催事への参加は、感染対策の関係上でできていない。		
46		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	5% 50% 45% 0%	○自らの意思を伝えることができる方は、それなりの交流ができているが、伝えることが難しい方はできていない。 ○散歩の際に、近隣の方々との挨拶は出来ているが、交流とまではいっていない。 ○制限下での面会は自由が効かない。 ○本人自らという積極性は課題が残る。	一人ひとりの力を見出す関わりを行いながら、思いを伝えることが難しい方でも代弁することができるようにしたいと思っています。他者との関わりをもっと増やせるように取り組んでいきます。	
47	本人が持つ力の活用	本人は、この GH にいることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	95% 5% 0% 0%	○毎日の活動を通して、出来ることは自分でしてもらっており、役割、生きがい作りに取り組んでいる。 ○本人の表情を見ながら常に、満足かどうかを確認している。 ○本人の笑顔、それをご覧になられた家族の喜びの言葉が何よりの反応だと思います。 ○SNS の活用は、馥郁の長所。利用者が安心して生活を送っておられることの証拠だと思います。	利用者の安心は、表情、行動で表されます。面会に来た家族、HP や Instagram を見られた家族から、喜びの声をいただいております。これからも安心の日々、よりよい日々を送ることができるための努力を続けていきます。	

グループホーム馥郁 (R6.11.26 開催)

令和6年度 自己評価・外部評価・運営推進会議活用ツール（ 20 項目評価 ）

No.	タイトル	評価項目	自己評価	%	記述	外部評価	運営推進会議でのコメント
Ⅰ.理念・安心と安全に基づく運営							
1	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	100 0 0 0	・令和6年度から義務化された、年2回の身体拘束の法定研修に取り組んでおり、適正化委員会でも自己評価や身体拘束についての研鑽の場として活用できている。 ・勉強会を開催したり、職員同士で情報共有を行い取り組んでいる。 ・玄関施錠は夜間帯に限定して、施錠については夜勤者が確認を行うことになっている。	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	<運営推進会議> 施錠については、夜勤の時間帯に限定。しかし、人員配置により、やむ得ない場合もあるが、職員間で協力を行うことで、拘束をしない取り組みを徹底していく。 身体拘束適正化委員会を令和6年度から開催し、ケアの向上に努めていく。
2	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	97 3 0 0	・年2回の虐待防止における定期的な勉強会を開催し、質の向上に取り組んでいる。 ・研修に参加することで自己研鑽できている。 ・スタッフ同士で意見を出し合いながら、ケアを見直し、お互いの言葉かけにも注意を払っている。 ・時々、言葉遣いで反省することがある。	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	<運営推進会議> 定期的な研修会への参加が見られる。年齢や家庭の状況では、参加できない職員もいる中で、伝達講習を行ったりしている。多くの学びを入居者様へのケアに活かしていきたい。
3	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	96 4 0 0	・家族からは面会の度に、気づいたことやご要望がないかを確認している。 ・サービスの内容が、会えない家族にも電話や文書での報告が実施できるように取り組むことが出来ている。(月次報告やInstagram) ・要望等は管理者が取りまとめ責任者や職員へ報告できている。	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	<運営推進会議> 面会の機会や定期の報告で、家族とのやり取りはできている。HP や季刊誌などでの情報の発信。今後はアンケートの実施も検討していきたい。
4	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	98 2 0 0	・年2回の個人面談を行い、それぞれ個人の目標や課題を代表者と共有している。 ・定期的な事業所内勉強会や外部研修を積極的に設け、職員の資質の向上に繋げている。 ・常々、処遇改善の見直しや働きやすい環境改善を図ってくれている。	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	<運営推進会議> 職員に対して、処遇改善の見直しを図る等の働きやすい環境づくりに取り組んでいる。
5	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	97 3 0 0	・事業所内研修会は、各委員会が主体性をもって研修内容を計画できおり、個人個人が常に学び姿勢をもって取り組んでいる。 ・GH協議会における研修(ZOOM)等の開催を定期的に代表者が発信してくれている。 ・資格取得を目指すことの大切さを学べている。	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	<運営推進会議> 有資格者の数も多く、努力が見えている。全員が研修は参加できないまでも、職員が学ぶ姿勢をころからも育む環境を作っていって欲しい。

					・認知症研修の段階をおった学びの機会がある事を理解できた。		
6	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	95 5 0 0	・日々の気づきや家族との面会等において、確認したものを共有ツールを使って職員間で共有することにより、必要時はケア計画に役立てることができた。 ・面会制限の緩和により、家族と会える機会が増えたことから情報収集の場が増えてきた。 ・専門職（PT・ST・管理栄養士）との意見交換の場を作ってもらえたことから、ケア計画の見直しやケアの評価に役立てることができている。	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	＜運営推進会議＞ 今後は、訪問看護ステーションとの会議も増やしたり、より家族との面談の機会を大切にしながら計画作成に取り組んでいきましょう。
7	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	90 10 0 0	・ケース記録や共有ノートの活用が情報の共有に役立てられている。 ・定時の申し送りやユニットカンファレンスを通して職員間での情報共有やケアの見直しの機会として活用できた。	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	＜運営推進会議＞ 職員間の情報の共有をしっかりと意識しているので、引き続き、記録やカンファレンスを通して共有に努めて行きましょう。
8	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	95 5 0 0	・入院があった際に、情報提供書を作成し先方の医療機関へ情報提供を行った。 ・入院の際は、安心して療養が行えるよう家族の方へ十分な説明を行い、協力できることが積極的に行った。 ・訪問看護との日頃からの連携により、病院関係者との関係作りを行っている。 ・直接、医療機関とやり取りを自らがする訳ではないが、平時からの様子をしっかりと確認しながら、異常時には速やかに報告をするように心がけている。	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	＜運営推進会議＞ 利用者様が適切な治療が受けられるように情報交換や関係作りができている。
9	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	85 15 0 0	・重度化指針を入所前に本人家族と共有できているが定期的な見直しや確認も必要である。 ・年齢からしてもいつ何が起きてもおかしくない状況の中、変化に対する気付きや重度化した場合は、状況に応じた介護スキルが問われることから、定期的に本人、家族の意向については話し合いや日常での会話を大切にしていく必要がある。 ・地域の関係者を社会サービスと捉えた場合、社会資源としての選択肢になるための情報収集や共有を図っていく必要がある。	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	＜運営推進会議＞ 入所時の契約の場において、人生最終段階の意思決定について聴き取っていることから、定期的な意向の確認を実施する上で本人・家族とのコミュニケーションの機会を増やしていきましょう。

10	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	90 10 0 0	・火災訓練(2回/年)、水害訓練(1回/年)は実施できている。 ・当日の訓練に参加できなかった職員も後日図上訓練を実施する取り組みもできている。 ・地域実情から協力要請は難しいが、地域の実情や事業所としてできる取り組みがあれば、協力していきたい。	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	＜運営推進会議＞ 定期的な計画のもと、訓練はしっかりと実施できている。訓練の機会を大切にしながら、非常時のスムーズな対応に繋げて下さい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
11	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	92 8 0 0	・接遇委員会が定期的に評価表にて、自らの振り返りのアンケートを実施しており、意識づけとなっている。 ・傾聴、受容、共感のもと対応に努めるように取り組んでいる。 ・事業所内研修会にて2回/年の研修の機会が計画されており、自己研鑽の場となっている。	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	＜運営推進会議＞ 振り返りで気付くことは重要ですが、そのことを行動変容として変えていくことが大切です。コミュニケーション力を高める研鑽の機会を取り入れていきましょう。
12	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	95 5 0 0	・病院の管理栄養士との連携を図りながら、食事形態や内容についての情報共有だけでなく、管理栄養士を迎えて直接指導を仰いだりするなど食事について考える機会が増えている。 ・嗜好(アレルギー含む)等、利用者に合わせて提供するように取り組み、適時、見直していくことが重要である。 ・今年度は、家族と一緒に楽しめる食事会を開催することはできなかったが、来年度は計画していきたい。	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	＜運営推進会議＞ 病院の管理栄養士との連携を図りながら、利用者の食事形態や内容を考える取り組みや、利用者ができることを取り組む機会の提供は継続していきましょう。
13	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	95 5 0 0	・義歯の洗浄、自歯のある方は仕上げ磨きを行い口腔ケアを行った。 ・できるだけ自立性を尊重しながら、義歯の方は、専用のブラシを使うなど対応ができている。また、自立でされる方も実施後の磨き残しがないかなどチェックを行っている。 ・必要な方へは、歯科医の往診を依頼するなど口腔状態の維持に努めている。	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	＜運営推進会議＞ 誤嚥性肺炎予防に対しての取り組みとしての口腔ケアや歯科医師との連携が出来ている。
14	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	95 4 1 0	・主治医と相談しながら、内服調整やパターンの収集を行いながら取り組むことができている。 ・排泄記録の共有を常に行い、適切な対応ができるように心がけている。 ・個々に定時の声かけ、汚染時の交換等、清潔保	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	＜運営推進会議＞ 排便コントロールに苦慮されながらも職員間での情報の共有を行いながら、個々の対応を実践できている。しかし、時折、自分たちの主体的な対応になってしまっ

					持に努めるようにしている。		いるので、業務の見直しを視野に入れながら取り組んでいきましょう。
15	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	95 4 1 0	・情報共有ノート等を使い、服薬内容については理解に努めるようにしている。 ・薬に変更があった場合は、変化がないか注意深く、見守りを行っている。 ・薬の副作用をまだまだ把握ができていなかった。 ・後発品の医薬品等処方指示とは、内容は同じでも名称が異なる医薬品もあるので、確認をするように心がけている。	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	＜運営推進会議＞ 薬の副作用の把握においても、職員間での共有を図りながら安全な服薬管理に向けて取り組んでいきましょう。
16	居心地のよい共有空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共有の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	97 3 0 0	・完全個室であることから、それぞれのプライバシーが守られている。食堂も明るく、清潔な印象をもってもらえるように飾り付け等をしている。 ・見守りが必要な方には、センサーを設置するなど安全な環境づくりに取り組んでいる。 ・席の配置を検討したり、四季の壁飾りなど、利用者間の良好な関係のもと、居心地よく過ごしていただけのように注意している。 ・季節に合わせた飾りつけを行い、季節感を感じれるように取り組んだ。	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	＜運営推進会議＞ 利用者を楽しませようとする取り組みが多く見られている。利用者同士の関係性にも配慮しながら、トラブルを未然に回避したり、工夫したりする努力を今後も続けて行きましょう。
Ⅳ. 本人の暮らしの状況把握・確認項目（利用者一人ひとりの確認項目）							
17	本人主体の暮らし	本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	90 10 0 0	・毎日の健康チェックのもと、異常時は主治医に相談し、指示を仰ぐように心がけている。 ・感染対策向上加算のもと、市民病院（感染管理認定看護師）から感染管理や利用者様の安全を守る行動について指導を受けることができた。 ・1回/週の訪問看護との連携を図ったりすることで常に利用者様の健康管理を最優先に考える取り組みができている。	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	＜運営推進会議＞ 定期的な医療連携の機会が確認できている。健康面・安全面を最優先にしたケアの実践を続けて行きましょう。
18	生活の継続性	本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近（自室等）に持つことができている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	95 5 0 0	・入所時から自宅にあるものの持込みは許可しており、馴染みのものを持ち込むことでの安心感を提供することができている。 ・ご家族の写真を飾ったり、慣れ親しんだものを飾ることにより、自分らしさを尊重できるように取り組みができている。	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	＜運営推進会議＞ 認知症の理解を踏まえた環境の変化の重要性の理解と自分らしさへの尊重が出来ている。

19	本人の持つ力の活用	本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	97 3 0 0	・今年度は外出の機会を多く取り入れ、尚且つ、一人一人のニーズに合わせた取り組みも実践できている。(例：自宅をみてみたい、夜景をみたい等) ・気の合う仲間と話をしたり、レクリエーションをしたりすることでいきいきとした生活が送れるように取り組んでいる。 ・できるだけ会話の機会を増やすように取り組んでいる。	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	<運営推進会議> いきいきと過ごすための雰囲気づくりのために利用者間のコミュニケーションの機会を増やす取り組みを増やしていきましょう。
20	総合	本人は、この GH にいることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	95 5 0 0	・写真を撮るように心がけているが表情をみても嬉しそうな、幸せそうな表情が多く見られていると思われる。 ・ご家族の面会やお便りから、グループホームでの生活(入所)に対する不安はなく、安心して生活されている姿が嬉しいとのお声があり、感謝している。 ・楽しいことだけでなく、これからの終末期に向けてその人らしい人生だったといえるように、利用者様の声をサービスや支援に引き続き役立てていかなければならない。 ・地域交流を来年度こそは取り入れていきたい。	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	<運営推進会議> 職員配置等によっては、十分な配慮ができないことがあるとの振り返りができていることから、その振り返りもケアの形にして、皆様が安心して、その人らしく過ごせる日々ために取り組んでいきましょう。

グループホーム馥郁 (R7. 1. 28 開催)

(参考様式4)

事業所名

グループホーム馥郁

目標達成計画

作成日

令和 7 年 2 月 1 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する 期間
1	23 27	家族の面会や地域の方々との交流はまだまだ制限がかかる中で、少しずつ取組みが出来ているが、まだまだ、支援者側が主体的に動いてる為、利用者様の意向という面や家族の協力という面では、まだまだ課題は残っている。	利用者様の声に日常の生活から耳を傾け、利用者様主体の活動計画や家族との交流など、施設内外で実践できる。	①日常生活から目的をもったコミュニケーションを実践していく。 ②家族との会話や利用者様についての背景の聴き取りを面会時等に行っていく。 ③行事等の計画に家族参加を検討していく。	12 ヶ月
2	15	その人らしい人生の終末期の考え方について、利用者様によって把握のバラつきが見られることから、終末期の人生の迎え方について家族と一緒に話し合いを行い、定期的に見直していくことが課題となっている。	その人らしい生き方を尊重した、終末期の迎え方について皆で意思確認ができる。	①定期的な本人や家族との終末期に対しての話し合いを実施していく。 ②エンディングノート等を用いた取り組みを実践していく。	12 ヶ月
3					ヶ月
					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。